■ 古道現地との連携と積極的活用

●熊野古道ツーリズム

熊野古道を素材とした観光を成立させながら、古道や周辺環境が損なわれることなく適切な管理が行われ、継続的に地域経済への波及効果が生まれることをめざす新しい観光のあり方を「熊野古道ツーリズム」と定義し、その確立が求められている。（「熊野古道アクションプログラム」より）

熊野古道センターは、熊野古道ツーリズムの確立と普及において大きな役割を担い、具体的には「情報発信」機能と、保全と活用にかかわる「プロデュース（施策の企画・運営）」機能が必要であると想定される。

熊野古道＝誰でも歩くことのできる「道」

利用しない
放置または保全のみの取り組み

適度な利用 ⇨ 保全

過度な利用＝荒廃
実態追従

入山（道）規制 ← → 全くのフリー

どのようにコントロールするか？

↓↑

「道」であるという現実

「世界遺産保全」という責任

熊野古道アクションプログラムの考え方 → 熊野古道ツーリズム

4つの方針 自主的に」協働する」じっくりと」あるものを活用」
3つの基本 独自性の確立」総合的な環境保全」内発的な地域振興」

◆ 保全と活用のバランスをとるには

情報

熊野古道に関する全て
・来訪者予定
・現地状況
・天候
・地域（店舗・宿泊・飲食等）
・交通
・イベント/伝統行事
・自然
・学術
その他

収集 → 集約 → 発信／提供

古道現地との連携と積極的活用

先手管理できる保全体制

量的なマネジメント

質的なマネジメント

新たな付加価値の創造

情報の一元管理と能動的な活用

重要機能

情報発信」プロデュース」